文化・芸術

「銅版画にはさまざまな技法が」（展示室のガイド）

2026年、アクリル、発泡ポリスチレンパネル、高さ133㌢

唐澤龍彦

「複製メディア」としての版画を、技法の面から振り返ると、木版画の次が銅版画となります。

銅板に刻まれた線に、インクを詰めて紙に刷ります。やがて薬品を使って銅板を腐食させる「エッチング」という技術が生まれます。欧州では15世紀ごろから広く行われたようですが、今展ではデューラー、ルドン、マックス・クリンガーの銅版画をご覧いただき、さらに日本の長谷川潔、浜田知明、駒井哲郎らの代表作も展示しています。

画家が描いた下絵をその通りに再現する「リトグラフ（石版画）」が19世紀に生まれると、画家たちはこぞってこの技法で作品を生んでいきました。ドーミエ、ピカソ、ブラック、シャガールのリトグラフを展示しています。創作を技法の変遷という面からみても、興味深い流れを見渡せます。（田中）

大川美術館企画展
「いま、美術館にいるんだけど
―唐澤龍彦のコミックと大川美術館」から



《名画の扉》